

【PTA総会進路指導部説明資料：2013年度入試概況分析】

◎センター試験難化

- ・国公立大志願者数約5000人減少 ・手堅い出願
- ・昨年度低倍率及び公立大学人気集まる

◎国公立・難関大・理系・医系・資格取得系→人気継続

文系：経済・経営・商はやや人気回復 それ以外は前年並
特に、法・社会学・教育は、さらに前年より志願者減

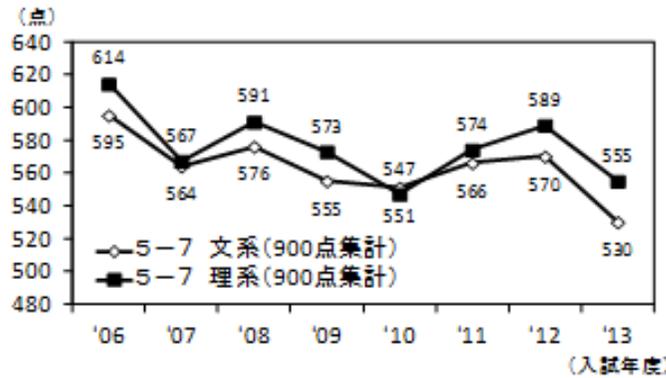
◎厳しい経済環境 → 家から通える大学〔地元〕

◎浪人増える

今春の卒業生の大きな特徴として、もっと早く本気で受験勉強を頑張っていたら志望校に合格できた実感（手応え）を本番の入試で持った人が例年になく多く、最後妥協した大学に進学せず、結果浪人が例年より増えた。（全国的な特徴）

センター分析

【全国概況】 平均点は数学Ⅰ・A、国語で大きくダウン
総合型平均点は3年ぶりのダウン



左のグラフは大学入試センターが公表した各科目の受験者数と平均点の推移のグラフである。

主要教科である数学Ⅰ・Aで-19点、国語で-17点と大きく落ち込んだ。両科目とも今年の平均点は満点の5割程度しかなく、他の主要教科科目の平均点が6割前後であることと比較すると、その低さが際立っている。特に国語の平均点は過去最低。《本校分析》

本校でもほぼ全国的な傾向と同じであったが、国公立文系・数学ⅠA

日本史・化学・生物はやや健闘した。

国公立大学入試

■全国傾向

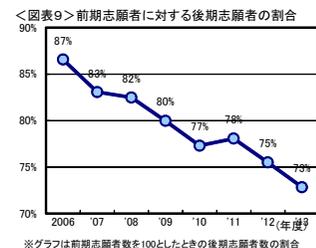
①国公立大志願者総数は約5千人減少

募集人員に対する志願倍率は前年の4.91倍から0.07ポイントダウンし、4.84倍。

②国公立大入試の中心である前期日程の志願者数は前年より微増

③センター難化により

- 模試志望動向では国公立大志望者は大幅に増加を予想していたが、国公立大の出願自体を取り止めた受験生が多かった
- 私立大専願へ切り替える者が増えた
- 後期日程過去最高約7,000人減（1999年度以降で最低）
主に、後期まで粘れず私大に
※本校生は、後期試験合格者は昨年6人から8人と増えた
後期諦めないで最後まで頑張った生徒が、CDE判定を逆転し合格を果たしている。
- 公立大、すべての日程で人気が強まり昨年より大幅難化
特に、高崎経済大が前年比125%大幅増
- 昨年度志願者が減少した大学と模試志望動向で集まっていた大学を中心に志願者増



◎難関大学 東北大学・筑波大学・お茶の水女子大に合格

東北大(2人)、筑波大(2人)の合格した生徒はいずれも志願者が昨年より増えて難化した学部であったが見事合格。お茶の水女子大(1人)には推薦であったが16人中3人の難関を制した。また、本校は各学年にこのような難関大に合格できるレベルが少なくとも今年以上いると考えられる。ただ、小高生は自分で限界を決めてしまう傾向もあるので、自分の限界に挑戦し、さらに今年以上を目指してもらいたい。

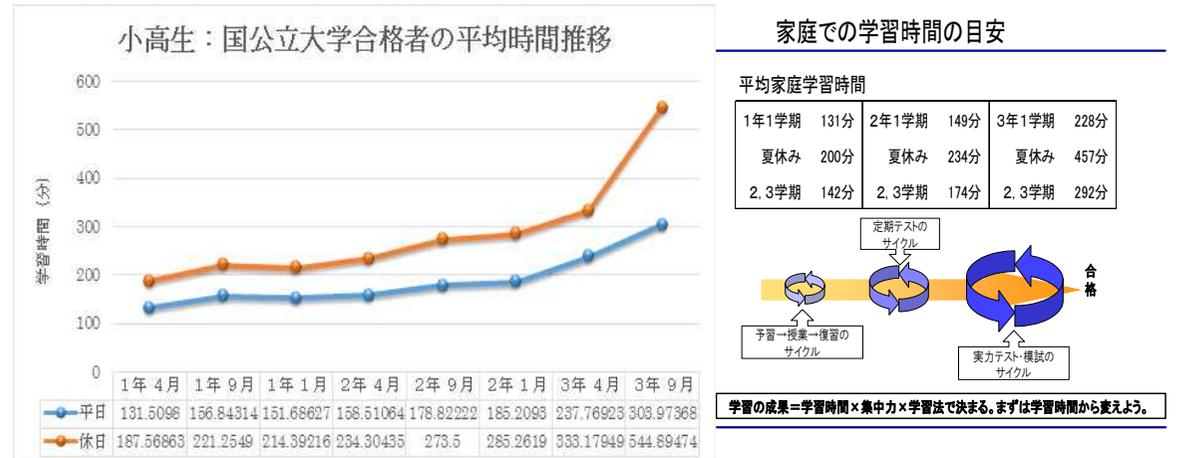
◎国公立大学合格者現役55名
宇都宮大学は12名(県内第10位)

センター試験の大幅な難化により、浪人回避国公立大学人気継続で全国どこへでも出願した傾向、さらに例年受験しない成績上位の生徒が本校生と多数バッティングして受験したことの影響もあり、特に前期試験において大変苦戦した結果となった。また、センター時点でA判定であったが、想定以上に押さえ(安全志向出願)で受験され、不合格となるケースも例年より見られた。センター出し切り(実質的な後期試験はなくセンターだけで判定される制度)は今年のようなセンター難化の時はより厳しいことが確認された。ただ、一方でセンター難化の年は前期が不合格で都内の私大等に決めてしまうケースも多い。本校では後期試験まで諦めないで頑張り続けた生徒が例年より多く、結果後期試験では合格した生徒は増えた。基本後期試験まで受験をやりきることは、受験戦略的には鉄則である。

◎国公立大学合格者《学習時間と教科数》との関連大

低学年からきちんと学習していた生徒は、きちんと合格できていることも決定的な事実として明らかになった。

本年度、合格した生徒の学習平均時間の推移と一日学習する教科数を分析。



《考察》本校生のDataなので、下記の時間を学習すればセンターが難化しようが、本校生が合格できる可能性が高いと推察できる。

- 1年次～2年1学期まで 【平日】2時間30分前後 【休日】3時間30分～4時間
- 2年2学期～2年末【平日】3時間 【休日】4時間30分
※特徴：2年2回（9月）頃に、合格者はグンと学習時間が上がる傾向がある。
- 3年生第1回（1学期）【平日】4時間～ 【休日】5時間30分
- 3年生第2回（実質は夏休み頃～）
【平日】5時間～ 【休日】9時間30分～
- ※1日学習する教科数【平日】1年生：2～3教科、2年生：3～4教科、3年生：5教科
【休日】1年生：3教科、2年生：4教科、3年生：5教科～6教科

◎推薦入試について

◆推薦Ⅰ期入試（センター試験免除）
29名出願して12名合格（合格率43%）

実際国公立大学の推薦入試は難関であるが、宇都宮大、お茶の水女子大、電気通信大、新潟大等合格。合格率は43%で全国平均30%を上回る。本校は例年40～50%。

◆推薦Ⅱ期入試（センター試験利用） 7名出願して2名合格

推薦入試を効果的に利用し、センター試験で点数が取れず合格するのは厳しいと思われたが、センター利用推薦入試において、諦めずに小論文や口頭試問で頑張り、大逆転して合格した。最近後期試験の定員を推薦入試に移行している傾向があるので、第1希望で推薦入試が特に嫌でなければ、小高生の素直・謙虚・実直な人柄は国公立大から高く評価されるので、是非積極的にチャレンジしてほしい。

■校内模試との相関

【過去3ヶ年の校内模試（5教科7科目型900点満点）の平均】

◎国公立大学合格者校内模試平均 382点（得点率42.5%）

◎宇都宮大学合格者校内模試平均 378点（得点率41.1%）

◎東北・筑波大学合格者校内模試平均 485点（得点率51.1%）

私立大学入試

入試概況分析【共通】以外の私大独自傾向

①難関より中堅に、②都市部より地方の志願者増

③女子大の人気復活 ※起因：センター失敗女子→早く決めたい安全慎重志向

④国公立とは対照的に「法・政治・経済・行政」系統が増

私立大学合格者総数（延べ）337人（昨年度345人）昨年並

※2年前419名だったか、昨年経済不況→慎重出願・出願大学数減傾向継続

推薦入試：9名受験し7名合格。合格率は78%と高く、文教・日本等に、また例年であるが剣道部で頑張った生徒が難関の中央・順天堂に合格した。

◎難関〔進研偏差値65以上〕大学に、計18人合格 《昨年》16名

明治大	3	青山学院大	2	立教大	2	中央大	2	法政大	4	東京理科大	5
-----	---	-------	---	-----	---	-----	---	-----	---	-------	---

早稲田・慶応には残念ながら合格者は出なかったが、昨年よりやや合格者を増やした。

■上記大学の校内模試合格者平均は 315点（得点率52.4%）

◎中堅〔進研偏差値55～64〕大学に、計118人合格 《昨年》112名

東洋大	21	帝京大	16	日本大	15	獨協大	13	専修大	8	駒澤大	7
-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	---	-----	---

創価大	6	亜細亜大	5	文教大	5	芝浦工大	5	東京家政	4	東京農大	3
-----	---	------	---	-----	---	------	---	------	---	------	---

成蹊大	2	武蔵野大	2	明治学院	2	順天堂	1	武蔵大	1	日本女子大	2
-----	---	------	---	------	---	-----	---	-----	---	-------	---

○昨年度より獨協・帝京の合格者増と、文教・芝浦工の合格者減が目立った

◎合格者数ランキングベスト5

①白鷗大	45	②東洋大	21	③帝京大	16	④日本大	15	⑤獨協大	13
------	----	------	----	------	----	------	----	------	----

白鷗大学（学業特待制度の影響も）に45名（昨年より+14）

看護・医療技術・薬系

◎難関国立医学部臨床検査学科に合格

経済状況の悪化に伴う就職難を背景に資格取得志向が強くなり、昨年度よりさらに志願者が全国的に1.5倍程度増え、とても厳しかった。

【国公立】新潟大学 医学部保健学科 臨床検査 看護

【私立】自治医科大学 獨協医科大学

看護医療系は難関なので、本校生は一般入試で厳しい結果なる可能性が高い。

特にこの系統では、本校生の実直で素直な性格や人間性を評価してくれる推薦入試が、最大の効果的な戦略と言える。本校では先生方の適切な小論文・面接指導で、今年も一般では合格が厳しい生徒も多数推薦で合格した。

また、専門学校では公立の栃木県立衛生福祉大学校看護本科に、5名合格した。